

環境に係る情報協議会

国営かんがい排水事業 北見二期地区

1. 環境に対する考え方

《農村環境の現状と課題》（「北見市田園環境整備マスタープラン」より）

【現状】

網走国定公園、常呂川、内陸部に生息する貴重な動植物など、多様で豊かな自然に恵まれている。

【課題】

豊かな自然を、開発事業とのバランスを保ちながら保全し、次世代に継承していく必要がある。

《環境保全の基本的考え方》（「北見市田園環境整備マスタープラン」より）

農業・農村のもつ土地や自然環境の保全、憩いの場の提供、文化の伝承などの多面的機能を高め、地域の活性化を図る農業を推進する。

2. 環境配慮計画

《基本方針》

本地区においては、北見市の田園環境整備マスタープラン等との整合を図り、多様な動植物の生育・生息環境の保全を図るとともに、農村景観との調和に配慮した整備を進める。

《取組内容》

(1) 生態系への配慮

- ・新設用水路(管水路)を整備する際に発生する表土を埋戻し土に活用することで、在来植生の保全・回復を図る。
- ・工事実施前に鳥類の営巣状況の確認を行い、営巣が確認された場合は、繁殖への影響が低い時期を施工時期として設定する。
- ・常呂川水系の良好な水質環境を必要とする生物が生息していることから、用水路の施工の際には、濁水流出防止施設を設置する。

(2) 景観への配慮

- ・既存林の伐採を極力回避するルートを選定し、在来植生の保全を図るとともに、自然と農業が調和した農村景観を保全する。
- ・新設するファームポンドを地中埋設し遮蔽するとともに、覆土上に植栽することで、周辺景観との調和を保つ。植栽に際しては、管水路と同様に、在来植生によって回復する。